

## ギガビット研究会 通常総会・第19回シンポジウム開催報告

日時：2021年6月25日（金） 13：15～15：30

方式：Zoomによるオンライン開催

ギガビット研究会では、通常総会を年1回、シンポジウムを年2回開催しています。今回は2021年度の初めに当たりますので、総会と第19回シンポジウムを合わせて開催いたしました。また、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みオンライン開催と致しました。

シンポジウムに先立って開催された通常総会、その後の第19回シンポジウムでは、「火花抵抗と法則の適用性～EMC/ESDの本質を探る～」と題して講演が行われました。

### プログラム

13：15～13：45 通常総会

議決権のある会員(会員総数：54名、出席者数(委任状含む)：36名)の方々にご出席いただき、まず2021年度の研究会代表として上芳夫が再選され、次いで2020年度の事業報告及び決算の承認、2021年度事業計画及び予算の承認が行われました。

14：00～15：30 第19回シンポジウム

『火花抵抗と法則の適用性～EMC/ESDの本質を探る～』

名古屋工業大学 名誉教授、電気通信大学 客員教授 藤原 修 先生

「静電気放電(ESD)」はEMCの概念が米国で確立される以前から電磁ノイズの「元祖」として知られ、「ESDに強い機器はあらゆるノイズに強い」と云われていますが、その仕組みははまだ不明です。

「火花抵抗」がEMC/ESDの本質であり、解明の扉を拓く鍵と考えられます。この講演ではToeplerとRompe-Weizelの提案になる異なったふたつの火花抵抗則を対象として、法則を導く仮説の相違と齟齬をきたす適用性の検証例を紹介し、今後研究すべき課題についてご講演いただきました。

その後、お願いしたアンケートに対して、参加された方々から有益な回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。一部を紹介させていただきます。

### 感想・要望

- ・ ESDの奥の深さを初めて実感しました。試験の規定の難しさなどもよく分かりました。
- ・ 商品設計で関わっているESDに関連して、学術的な視点の情報を得られる貴重な機会でした。
- ・ 空間の放電理論について知見がなく、興味深く聴かせていただきました。今回、2つの火花抵抗則があり、適用しやすい範囲が異なっていて、どちらにも適用できないケースがあることを初めて知りました。
- ・ ESDに関する歴史的なお話も聞くことができ、大変興味深い内容でした。

- ・講演者の充実した内容をお伺いしました。2回目も期待しています。
- ・放電とノイズの取組みについて、久しぶりに記憶と理解を整理しなおす機会となりました。
- ・かねてより興味があったテーマだったので有益でした。

皆様のご要望に沿えるよう努めてまいりますので、今後ともご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

以上